

What's happening?

日本での学生生活



総合科学部 特別聴講学生
鄭余 ティヨ[中国]

日本に来てから、ほぼ5ヶ月経ちました。学校で授業を受けながら、ほかのこともいろいろ体験しました。けっこう楽しかったです。ここで、いくつかおもしろい事を紹介します。

1、博物館での見学

日本に来たばかりの時に、徳島城博物館に行きました。そこで、日本人の伝統文化への愛を強く感じました。展示品の解説を担当してくれた方は非常に熱心に吉野川の歴史、そして徳島の歴史を説明してくれました。吉野川の歴史に関する資料もいっぱいくれたので、伝統文化を大切にしていることを直接感じました。たぶん政府も一般市民もみな国の伝統文化が持続的に発展できるように力を注いでいると思って、とても感心しました。

2、児童館で昔話を話す

一月のある土曜日の午後、私を含めて三つの国からの留学生は徳島市の児童館へ行って、子供たちに自分の国の昔話を話しました。かわいい子供たちに向かって、自分の国の伝統文化を了解させて、とても有意義なことだと思います。ほかの国への認識が深まるともに、親近感もだんだん深まると思います。その日、帰るとき、私たちは子供たちからプレゼントをもらって、とても嬉しかったです。

3、茶道の体験

茶道は日本の代表的な伝統文化の一つで、外国人としての私たちが興味を持って、体験したいことの一つです。二ヶ月前に、一度経験しました。自国の茶道とは完全に違うと言えないけど、少なくとも形式上にはぜんぜん違うと思います。今も分からないが、日本人はどうしてお茶を飲む時に、茶自身も飲み込みますか。抹茶には、なにか特別な栄養があるのかと言う疑問をずっと持っています。そして、茶道を行う時に、主人にとっても客人にとっても、大変なことだと思います。まずは正座しなければなりません。たぶん外国人だけにとって苦しいことかもしれませんが、それから、主人と客人と両方はあまり話し合いません。話しても、内容は実質てきな意味を持っていません。ただ、心の交流を重んじます。おもしろいです。

これらのことを通して、いろいろ勉強するとともに、日本の文化を体験して、自国との交流を推進することもできます。ほんとうに豊富多彩な留学生活だと思います。



冬号特集「私も徳大生!! 徳島大学の生涯学習」を読んで

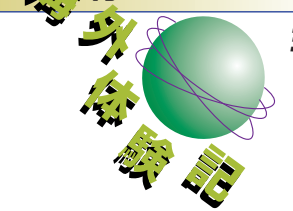


- 生涯学習として地域に貢献する徳島大学、いきいき輝いている受講生の写真と話はとても嬉しくなる記事でした。
- 大学の公開講座については知っていたが、今回の特集を読んで、すごく活気があっておもしろそうだった。

- 生涯学習の大切さは認識していたつもりですが、受身でないこんなに能動的な素晴らしいシステムがあるなんて、県外者から見ると羨ましい限りです。
- 開かれた大学として、地域に幅広く貢献している様子がよく分かりました。写真も効果的で興味深く読ませて頂きました。

読

者



ミネソタ大学薬学部の

ミネアポリス メトロドーム スカイウォーク



平成19年3月から3週間、ミネソタ州立大学薬学部における先端的クリニカルファーマシー教育に関する視察並びに情報収集を行いました。

ミネソタ州はカナダ国境に接する州であり、州の東にはスペリオル湖、州の南北をミシシッピー川が流れています。ミシシッピー川を挟んでセントポール市(州都)と隣の都市であるミネアポリス市と合わせて「Twin Cities」と呼ばれており、ミネソタ大学薬学部は二つの都市のちょうど中間に位置しています。薬学部のあるキ



ャンパスには、Medical CenterやCancer Center, Molecular and Cell Biologyなどの学部や研究所が集中して存在しており、基礎医学・臨床医学の教育及び研究の拠点となっています。

今回の研修では、ミネソタ大学薬学部の臨床薬剤師教育カリキュラムを実体験し、できるだけ多くの講義を聴くというスケジュールで情報収集しました。ミネソタ

大学薬学部のPharm.D.プログラムに進学する学生はprepharmacyの教育(2~4年)をすでに終了しているため有機系や物理系の基礎科目の講義はほとんどありません。4年生になると"Advanced Pharmacy Practice Experiences"という薬局実習が1,800時間もあり、高度な専門性を持つ臨床薬剤師を育成するという姿勢が明確に示されたカリキュラムを実践しています。実務実習の期間の長さが日本の薬学部の教育プログラムと一番違うところでした。講義では、ITV(Interactive Television)を使った双方向の遠隔授業を多く取り入れており、二つの薬学部のキャンパス間(300km近く離れている)でアクティビティーの高い講義が行われていました。加えて、病院やドラッグストアで働く薬剤師も皆が口をそろえて「ミネソタ大学薬学部は素晴らしいです」と、自信を持って話しているのには感動しました。カリキュラムが充実していること、教員自身が授業の到達目標を明確にし、アクティブな講義を心がけるというのが大事ではないかと痛感しました。



患者対応、薬剤交付の演習室にて

臨床薬剤師教育カリキュラム 研修を終えて

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部[薬学系] 臨床薬物動態学分野

新垣 尚捷 あらかき なおかつ



セントポール大聖堂

冬のミネソタは寒さが厳しいと聞いていましたが、到着した日(猛吹雪でした)をのぞき、晴天が続く快適な3週間でした。また、ミネアポリスのダウンタウンのビルや大学の施設は空中通路(スカイウォーク)や地下街で繋がっており、寒い日は地上にでなくても不自由を感じないというのも新鮮で楽しい思い出になりました。

筆者が帰国して約4ヶ月後の2007年8月1日、ミシシッピー川を通るI-35Wの橋が崩れ、13人が死亡、140人以上が負傷するという大事故が起きました(ミネアポリス高速道路崩落事故)。天気の良い日は散歩がてら写真をとった橋でもあり非常にショックを受けました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

最後に、今回の滞在期間中様々なご配慮をいただきましたミネソタ大学薬学部 Rodney Carter教授に深く感謝いたします。また、今回の派遣に際し徳島大学薬学部医療人養成推進プログラム委員会委員の先生方、そして臨床薬物動態学分野樋口富彦教授および教室員の皆様に深く感謝いたします。



ミネソタ州議事堂セントポール(歴史を感じる街並でした)

とくtalkへのご意見

- ◆少しマンネリ化してきているような感があります。
 - ◆何だか、個、個、個のオムニバスで終わってしまっている感じがします。徳島大学全体、あるいは大多数の学生のパワーが見られる記事の出現を期待しています。
- いつも新鮮な情報が届けられるように、また、同じテーマでも視点を変えたり、切り口を変えた内容にしたいと思います。しかし、テーマによってはどうしても同じような内容になってしまっていますが、ご了承下さい。また、個々の学生だけでなく、学生全体のパワーを伝えることができるような特集を考えたいと思います。

の

言

葉